

新発田市 平成 29 年度 第 2 回定例記者会見

1 日 時 平成 29 年 5 月 9 日（火）午前 11 時～

2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室

3 内 容

- 新庁舎開庁・市制施行 70 周年記念式典
- 新市庁舎開庁・市制施行 70 周年記念絵画展
- 文化庁メディア芸術祭優秀賞受賞作品「培養都市」鑑賞会
- 新発田市観光大使認定式
- AR システムと連動した「落谷虹児まちなかアートギャラリー」
- スポーツで子育て・定住促進応援事業
- 「ふとっパラプレミアム」限定販売
- 「食のアスパラ横丁、味めぐり」
- 住宅リフォーム支援事業
- 「小学校防災キャンプ in あかたにの家」
- 札の辻広場でのイベント「しばた軽トラ市」
- 「しばた中心市街地ランニングフェスタ」
- 「春季趣味の展示会」
- 「手工芸・水墨画展、いきいき作品展合同展」作品募集
- 「二王子岳山開き・安全祈願祭」
- 「剣龍峡山開き・安全祈願祭」
- 「明るい選挙出前授業」
- 「市民釣り大会」
- 「歯科無料健診」
- めざせ 100 彩「しおかぜウォーク」

あいさつ

- 先日、新発田ロータリークラブの高澤会長のあいさつの中で、NHK では「大型連休」という言葉は使うけれども、「ゴールデンウィーク」という言葉は使わないという話を聞きました。

- 昭和 20 年代後半に最も大きな娯楽であった映画業界では、この連休に合わせて各映画会社が大作・新作を発表したそうです。そこで、「ゴールデンウィーク」というものを作ったそうで、NHK では商業用語ということから使わないという話をされていました。
- そのゴールデンウィークが終わって、5 月と言えば「堀部安兵衛生誕地まつり」があります。まつりが始まってちょうど 6 年くらいになるようですが、折に触れて取り上げていただけると、たいへんありがたいと思います。
- もう一つ、5 月と言えばアスパラガスのもっともおいしい季節です
- 先日、麒麟ビールの新潟支社長が、新発田のアスパラガスを取り上げたポスターを持参されました。
- 当市出身の松田^{まつだ}英^{ひでゆき}さんがデザインしたとお聞きしましたが、アスパラをはじめ、雑煮や越後姫、コシヒカリなど、新発田の物産を輪にして、「『しばた』に生まれてよかった！」というフレーズを使ったポスターを作っていただきました。
- ビール、そしてアスパラがおいしい季節ということです。
- 記者の皆さんも、ぜひ、新発田のアスパラをご賞味いただけるとありがたいと思っています。

それでは、会見項目の説明とします。

最初に、新庁舎開庁・市制施行 70 周年記念式典について

- 当市では、1 月 4 日に新市庁舎「ヨリネスしばた」が開庁しました。そして、今年が市制施行 70 周年の記念すべき年に当たります。
- 5 月 21 日（日）、市民文化会館でこれを記念した式典を開催します。
- 第 1 部では、関係者の皆様、市民の皆様をお招きし、当市の歴史を振り返るとともに、新市庁舎の開庁と市制施行 70 周年を共に慶びたいと思っています。

- また、「ふるさと創生特別功労」として、本市出身の作詞家・たかたかし先生を表彰することとしています。
- 第2部では、たかたかし先生にプロデュースしていただいた新しい「市歌」を、歌手の芹洋子^{せりようこ}さんと杉並児童合唱団の皆さんに発表していただくこととしており、華やかに祝賀ムードを盛り上げていただけるものと思っています。
- この式典を通じて、これまで本市の発展にご協力いただいた市民の皆様に、改めて感謝の意をお伝えするとともに、次の100年に向けた「新生しばた」のスタートを、市内外へPRしたいと考えています。
- 報道各社へも招待状を送っています。ぜひ、記者の皆様にもご参加いただきたいと思っています。

次に、芸術鑑賞に関する情報を2つ紹介します

- 先ほど紹介した記念式典に先立ち、5月11日（木）から21日（日）まで、新市庁舎「ヨリネスしばた」で、記念絵画展を開催します。
- 主催は新発田市文化団体連合会で、「ヨリネスしばた」を展覧会の会場とするのは開庁後初めてです。
- 市内で活躍する洋画家・日本画家30人の作品を、1階の札の辻ラウンジや4階の議場ラウンジ、7階の市民ギャラリーなどに展示します。
- 庁舎を使って展覧会を行うこと自体が新しい試みであることに加え、庁舎全体を広く使う展示方法もたいへんユニークです。手続きに訪れた方にも、ぜひ、足を止めてご覧いただきたいと思っています。
- これまでも「札の辻広場」でのイベントや、議場を活用した上映会を開催してきましたが、この展覧会のような庁舎の活用方法も、中心市街地の賑わい創出につながるものと期待しています。
- 2つ目は、「文化庁メディア芸術祭」受賞作品の鑑賞会です。

- メディア芸術の優れた作品を顕彰する「第20回文化庁メディア芸術祭」のアート部門で、市内在住の写真家で映像作家でもある吉原悠博よしはらゆうひろさんが、優秀賞を受賞されました。
- これを記念して、5月23日（火）、ヨリネスしばたの札の辻ラウンジで、受賞作品「培養都市ばいようとし」の鑑賞会を開催します。
- 同芸術祭には、世界中から4,000を超える作品の応募があり、他の部門では話題となった映画「シン・ゴジラ」や「君の名は。」が受賞するなど、名実ともにたいへん栄誉ある賞だと聞いております。
- 当日は、吉原さんによる作品解説も行われる予定です。ぜひ、この機会に多くの方に鑑賞していただきたいと思います。

次に、観光関連の情報を2つ紹介します

- 1つ目は、新発田市観光大使の任命についてです。
- このたび、新発田市観光協会では、本市出身の俳優・三田村邦彦さんと落語家さんしょうていゆめまるの三笑亭夢丸さんしょうていゆめまるさんを、新発田市観光大使として認定することとなりました。
- 三田村さんは、改めてご紹介するまでもなく、俳優として多くのドラマや映画に出演されており、公私ともにご多忙の中であって、このたびの申し出を快くお引き受けいただいたと聞いています。
- 夢丸ゆめまるさんは、真打に昇格したこともあり、「大使になってもらってはどうか」との市民の皆様からの推薦もあったため、非常によいタイミングでお願いすることができました。
- 5月18日（木）に、生涯学習センターで認定式を行い、併せて、三田村さんには講演を、夢丸さんには落語を披露していただくこととしています。
- 今後は、お二人の活動や豊富な人脈を通じて、大いに新発田をPRしていただきたいと思っています。
- 2つ目は、本日、5月9日から運用を開始している、ARシステムを活用した「落谷虹児まちなかアートギャラリー」です。

- これは、市内 5 つの和菓子店に落谷虹児の作品を掲示し、専用アプリを使って、その作品にスマートフォンをかざすと、その作品と和菓子の情報を見ることができ、同時にポイントがたまるスタンプラリーです。ポイントを 3 つ集めると、落谷虹児記念館で記念品がもらえます。
- これによって、楽しみながら市内を巡ることができ、観光客の回遊性が高まると同時に、和菓子店と落谷虹児記念館、双方に集客の効果が見込まれるものと考えています。
- 今後は、順次チェックポイントを増やすこととしており、「和菓子店巡りから落谷虹児記念館へ」の流れが、新発田観光の一つの定番になることを期待しています。

次に、スポーツで子育て・定住促進応援事業について

- 当市では、スポーツと子育てを結び付けた新たな視点で、昨年度から「スポーツで子育て・定住促進応援事業」に取り組んでいます。
- 取組の 1 つ「スポーツ施設はみんなの遊び場」は、市内の幼稚園・保育園の園児を対象に、広い空間で気持ち良く体を動かす機会を提供し、運動の習慣化を目指すものです。
- 今年度の 1 回目となる 5 月 16 日（火）には、新発田農業高校出身で、読売巨人軍で活躍した、新潟アルビレックス・ベースボール・クラブの加藤健さんを特別講師としてお招きします。ぜひ、取材をお願いします。
- また、「運動遊び巡回講座」は、幼稚園・保育園を巡回し、足で地面を蹴って進む子供用の自転車「ストライダー」を使った「運動遊び」を行うものです。
- 今後は、子供たちの体力測定と足の力の調査を行い、新発田の子供たちが全国の子供と比較してどの程度の位置にあるか、また、運動の効果がどのくらいあるかを検証する予定です。
- さらに、10 月には「ストライダー」の全国大会を計画しています。大会に参加するため、全国各地から月岡温泉に大勢の親子連れが集まります。

○こうした機会を通じて、子供たちの体力向上だけではなく、観光振興や交流人口の増加に結び付けるとともに、「子育てするなら新発田」を市内外に発信し、やがては定住人口の増加につなげたいと考えています。

次に、新発田のアスパラの情報を2つ紹介します

○1つ目は、「ふとっパラプレミアム」の販売についてです。

○現在、7店舗で販売中の「ふとっパラ」は、太さが50円玉ほどもありますが、その「ふとっパラ」をはるかに超える500円玉ほどの太さの「ふとっパラプレミアム」を期間限定で販売しています。

○見た目のインパクトもさることながら、甘くて、柔らかく、「幻のアスパラ」と呼ぶにふさわしい逸品です。

○5月31日まで、JA北越後農産物直売所で販売しています。この機会にぜひ、多くの方に味わっていただきたいと思います。

○本日は実物を用意しましたので、会見終了後に、ぜひ取材していただきたいと思います。

○2つ目は、恒例の「食のアスパラ横丁、味めぐり」です。

○これは、市内50店舗で新発田産のアスパラを使ったオリジナル料理が楽しめるイベントで、今年は22の新メニューが登場します。

○また、異なる3店舗のシールを集めて応募すると、新発田産の和牛や、市内5つの日帰り温泉巡り無料券など、抽選で豪華な景品が当たるスタンプラリーも行います。

○おなじみの「アスパラみどりカレー」をはじめ、ラーメンからスイーツまで、個性あふれる自慢の逸品がそろっています。ぜひ、1店舗でも多く回っていただき、旬のアスパラを堪能していただきたいと思います。

このほかの情報としては、本年度も継続して募集する「住宅リフォーム支援事業」や、青少年宿泊施設「あかたにの家」での「小学校防災キャンプ」、札の辻広場での「しばた軽トラ市」、「しばた中心市街地ランニングフェスタ」があります。

また、市民の皆さんの自慢の作品を展示する「春季趣味の展示会」や「手工芸・水墨画展、いきいき作品展合同展」があるほか、登山シーズンの幕開けを告げる、二王子岳と剣龍峡の「山開き・安全祈願祭」があります。

さらに、高校生に選挙の意義を学んでもらう「明るい選挙出前授業」や、恒例の「市民釣り大会」、「歯科無料健診」、「めざせ100彩『しおかぜウォーク』」があります。

ぜひ、1つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市を盛り上げていただきたいと思います。

定例記者会見質疑応答概要

AR システムと連動した「落谷虹児まちなかアートギャラリー」について

毎日新聞 このような AR システムの活用は、県内の他自治体でも取り組んでいるか。

市長 当市では、最初に新発田の紹介ビデオが見られる AR に取り組んだ。四季折々の新発田の名所が見られるものである。これは「シバミル」と呼んでいる。施設を紹介するものはあるが、まちなかを歩いて最後に記念品がもらえるというような AR の活用方法は、ほかにはないのではないかと。もらえる記念品は手鏡である。今後は、チェックポイントを増やしたい。新発田は城下町ということもあり、石州流などの茶道が盛んで和菓子店が多い。その和菓子と落谷虹児のコラボということである。

憲法改正について

新潟日報 安倍首相の「憲法 9 条に自衛隊の存在を明記して、議論がある状況に終止符を打ちたい」というような発言があったが、駐屯地のある市として、この発言をどのように考えるか。

市長 当市は自衛隊があるまちで、一緒にまちづくりをしてきた経緯がある。「違憲だが合法だ」という考え方も一時期あったようだが、自分たちの国は自分たちで守るということは正しいことだと思っている。そのことが憲法の中で明記されていないというのはいかがなものか。専守防衛を謳ったとしても、自衛隊の存在は認めるべきであると思う。

新潟日報 新発田市は市制施行 70 周年、憲法ができて 70 年。同じ道を歩んできたと思うが、その立場から言っても自衛隊に関して明記されるべきということか。

市長 様々な意見があるが、現行の憲法で謳っている真髄は、普遍のものであると思っている。しかし、人間が作ったものに、未来

永劫変化を求めないのはいかかなものか。きちんとチェックをし直すということは、大事なことだと思う。一切触れてはいけないという「タブー」にするのはいけない。モンテスキューが「民主主義が崩壊するのは、為政者の特権意識とタブーが存在する時だ」と言うように、憲法といえども見直しする、9条を変えろという意味ではなく、人間が作ったものについて振り返ってみる、その行為そのものまでいけないのはいかかなものか。現行の憲法で謳っている真髓は素晴らしいものであるし、そのことは大事にすべきであると思う。

新潟日報 その上で、自衛隊の存在が明記されていない現状はいかかなものかということか。

市長 そう思う。「違憲だが合法だ」と表現されたことが記憶にある。それもおかしいことである。「違憲だけれども、存在は認めて合法だ」という考え方は、国を守ってもらおうという方々に対して真摯な態度ではない。存在はきちんと認め、憲法の中に国防・防衛という部分があるべきだろうと思う。

住宅リフォーム支援事業について

北陸工業 平成24年度に始まって、5か年で支給額が約3億1700万円とすると、上限額から推計して16億円くらいの効果があったと思う。アンケート結果を見ても、これからも事業を続けてほしいという回答が多い。これまでの事業についての受け止めと、現段階で継続するのか、拡大するのか、縮小するのか聞きたい。

市長 検討の詳細は担当課から聞いていないが、おっしゃるような経済効果は間違いなくある。取り分け、零細の事業者には喜ばれているので、できれば続けたいという気持ちはある。しかし、事業の原資である国からの交付金が狭められているので、この事業に一定の額を充てると、ほかを我慢せざるを得ない。かといって、額を小さくすれば経済効果がなくなる。気持ちとしてはやりたいが、国の交付金のような状況なので、その点を注視したい。

ふるさと納税について

新潟日報 返礼品が高額になっているため、総務省が自治体に是正を求めているが、新発田市は現状で高額なのか、また、その見直しをするのか。

市長 返礼品の比率を 30%にしてはどうかというのが一つ、もう一つには、観光感謝券が金券に当たるのではないかという議論がある。当市は遅まきながら参画したが、新発田の農産物や月岡温泉については非常に発信力があり、ふるさと納税額 4 億円は、県内でも上位である。つまり、売り上げというよりはむしろ発信力。新発田を発信するツールとして定着しつつあるときに、比率を下げられることはいかかなものか。感謝券を金券だというが、例えば東京の方がそれを使うためには、相当の額を使ってここまで来なければならない。通常のコピー券は、すぐにお金や物に替えられるものであるから、それとは少し違うのではないか。現在、情報収集に当たっている。感謝券に関しては、当市と群馬県の草津、四万温泉が大きいところである。その自治体の皆さんと、どう対応したらよいか、話し合いをしてみたいと思う。返礼率が 70%のところもあるようだが、これは行き過ぎと感じる。病院のお見舞いなどで「半返し」というのは、通常の社交の考え方であるので、このくらいまでは認めてほしいし、全国に我がまちを発信するツールとしては、面白い事業であると思う。できれば、このままやりたいというのが本音である。

新潟日報 返礼率は 5 割くらいということか。

市長 当市は、金額にすれば 50%くらいである。30%、50%というところが多い。70%というのは少ない

新潟日報 見直しというよりは、同様の状況にある市と情報交換しているということか。

市長 そうである。返礼品の件数では農産物が多いが、額として一番大きいのは観光感謝券である。同様の取り組みをしている他市の動向を見てみたいと思う。